

区分・種別	天然記念物
名 称	どうざんみね <small>ぐんらく</small> 銅山峰のツガザクラ群落
所 在 地	新居浜市別子山他
所 有 者	住友林業株式会社、新居浜市
指定年月日	平成31年2月26日
解 説	<p>ツガザクラは、氷期に日本列島に到達したツツジ科ツガザクラ属の常緑小低木。樹高は10～20cm、初夏に長さ約7mmの釣鐘型<small>つりかね</small>の花をつける。主な分布は東北地方中部から中部地方の高山帯で、鳥取県の<small>ほうきだいせん</small>伯耆大山や奈良県の<small>おおみね</small>大峰山系<small>はつきょう</small>八経ヶ岳、愛媛県の赤石山系に隔離分布する。銅山峰の群落は、分布の南限地帯に成立した規模の大きな群落であり、標高1,400m程度の稜線付近に見られる。風衝地にツガザクラはパッチ状、あるいはマット状の群落を形成し、裸地には実生や稚樹も多く定着しており、良好な自生地と考えられる。</p> <p>分子系統解析の結果から、ツガザクラ属の広域分布種のエゾノツガザクラとアオノツガザクラは単系統でツガザクラはそれらと姉妹関係であること、ツガザクラの分岐年代は約80万年前と推定されている。また、ツガザクラ種内において、銅山峰の集団は他地域とは異なり、遺伝的に独立性の高い集団であると考えられていることから、ツガザクラは日本の高山植物の起源を理解するうえで重要であり、銅山峰の群落は植物地理学的、生態学的、遺伝学的に価値が高い。</p>

